



問 津市と台湾との国際交流を今後さらに深める考えはあるか

台湾は大の親日国。日本統治時代のインフラ整備や教育文化において、台湾の方は今でも日本にとっても感謝している。東日本大震災では200億円もの義援金が贈られるなど日本と台湾の結びつきには非常に強いものがある。正式な国交がない日本と台湾にとって民間、自治体レベルの経済、文化交流が非常に大切と考え、交流をさらに深めるべきと考えるがどうか。

答 積み上げてきた交流の歴史を大切にしながらさらに深めていく

津市では、津まつりにおいて、台湾の交通部観光署を通じて学生のダンスチームを14回派遣していただき、伝統舞踊を披露していただいている。また、津市からは津まつりで演舞しているよさこいチームが台湾ランタンフェスティバルに18回参加しており、継続的に祭りを通じた交流を深めている。

今後も、これまで積み上げてきた交流の歴史を大切にしながら、交流をさらに深めていきたいと考えている。

その他の質疑・質問

- 官民連携による取り組みの現状と課題等について
 - 「中勢グリーンパーク」の整備経過、運営状況等について
 - 今後、「Park-PFI」を活用する考えは
 - 「道の駅津かわげ」の整備経過、運営状況等について
- など

▶ 安濃津よさこい
2023津まつり前夜祭に参加した台湾チーム「台湾華岡芸術学校」



問 津市の芸術を底上げしよう

現在の津市美術展覧会（市展）の出展数は第1回開催時と比較してどのような状況か。また、現在の規定では、すべての部門を通して1人1点の出展となっているが、出展数増加のためにも異なる部門での出展もできるようにしてはどうか。

答 複数部門への出展について、前向きに検討していく

出展数について、平成18年度の第1回津市美術展覧会においては471点、令和5年度の第18回は約半数の238点となっている。第1回当時は、部門ごとに出品できたが、平成25年度の第8回以降、展示スペースに限りがあることや新型コロナウイルスの影響などから、すべての部門を通して1人1点の出展としている。令和2年度以降、これまでに比べ展示スペースを確保できる久居アルスプラザで開催しており、新型コロナウイルスに係る行動制限が撤廃されたことから、複数部門への出展について、展示スペースの見直し等も含め、関係機関と協議の上、前向きに検討していく。

その他の質疑・質問

- 小中学校の統廃合について
- 10年後の児童数および生徒数はどのように変化していくのか
- 複式学級のメリット、デメリットは
- 市消防団事業所機能別団員の創設について
- M.O.A.(機動的救急隊)について

▶ 第18回津市美術展覧会写真部門における私の入選作品

